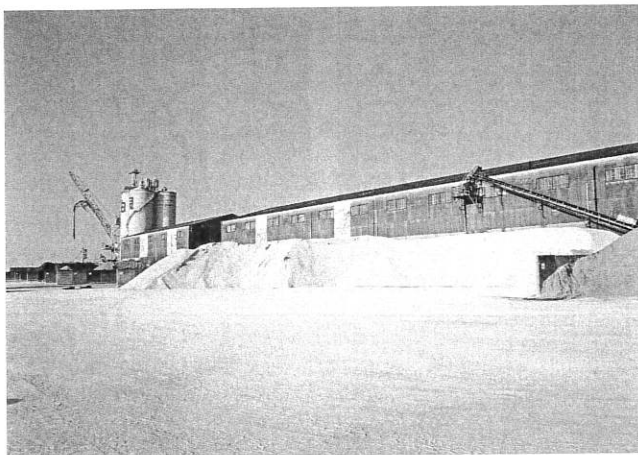
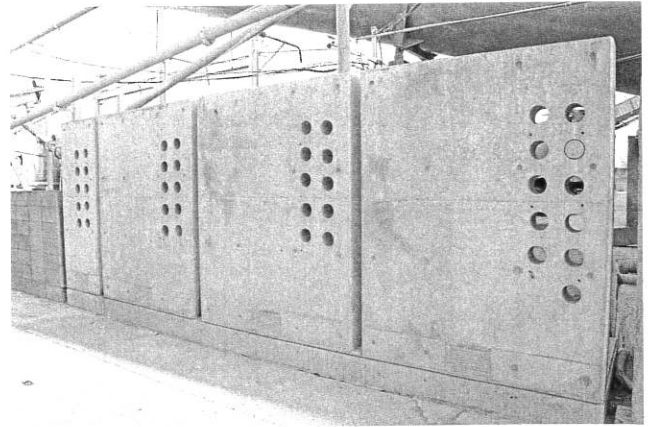


造ストックヤード（7種類、合計容量960m<sup>3</sup>）。粗骨材、細骨材はそれぞれ石灰石骨材と高炉スラグ細骨材を中心に3種類取り扱っており、バランスを考慮した混合比率で使用している。FAは砂置換、セメント置換でJIS認証を取得する。2022年4月1日以降、JIS品の粗骨材は主に石灰石100%で出荷しており、海送品の石灰石の安定調達を期し荷揚げする工場近く8号地岸壁のヤードを整備。石灰石の置き場を倍に拡張して最大1万tの在庫を可能にした。8号地岸壁は由良海運が管理し、2,000t積みの内航船が接岸できる。また、陸送品の石灰石骨材はダンプトラックによる長距離輸送になるため、調達量の増加に対応し委託先輸送業者がトレーラーダンプを増車している。



名古屋港8号地岸壁のヤード。石灰石置き場を倍に拡張した



工場の擁壁でグリーンクリートの長期暴露試験を行う

一方、石灰石骨材の使用比率が高まることによる生コン品質向上への寄与として乾燥収縮率の低減を予想する。同社は愛知や神奈川の生コン会社、電力関連会社（テクノ中部）、鉄鋼関連会社等とグリーンクリート研究会（大江康夫会長）を組織し普及活動を進めている。各種実験を通じてFAのポゾラン反応やBFSの潜在水硬性によるグリーンクリートの耐久性向上を明らかにしており、4年前に中性化特性の調査のため、工場内の擁壁にセメントの種類、FAのセメント置換比率を変えた各種配合を打設して30年間の経過を観察する長期暴露試験を行っている。今後は乾燥収縮による長さ変化も定期的に測定して研究会のホームページ（<http://greencrete-labo.com>）で発表していく方針だ。

## SDGs を目指して

「社員の働きやすい環境づくりに力を注いでいる。女性の社員運転手が年々増えて10人弱になり、出入りするダンプトラックやバラセメント車等も女性運転手が多いため、昨年、女性用化粧室をリニューアルしたところ非常に評判が良い。運転手を含めて社員は年々増加して若返りが進んでおり、事務所の建て替えを検討していく」

社員教育では資格取得を促しており、資格保有者はコンクリート診断士1人、主任技士4人、技士6人の合計11人。輸送体制はアジテータ車合計55台を常時配車し、大型車15台（「ダックス5」10台）、中型車20台を保有し、委託先2社の大型車20台を常備する。大型車は昨年、保有する全車両のドラムにSDGsラッピングを行った。ドラムの片面にSDGsの17の目標、片面に取り組み4つの目標（8働きがいの成長も、5ジェンダー平等を実現しよう、12つくる責任つかう責任、13気候変動に具体的な対策を）を描いた。「運搬している生コンが環境負荷低減に貢献していることを地域の人に知ってほしいし、SDGsへの取り組みを通じて社員に誇りをもって仕事に臨んでもらいたい」



大型車15台、中型車20台を保有。  
大型車全車両にSDGsラッピング

働きやすい  
環境づくり